

II 普及指導等

1 水産業改良普及事業

漁業現場において漁業技術、漁獲物の付加価値向上、地域活動や漁業経営の改善等について直接漁業者団体や漁業者個人に指導を行うもの。特に、震災からの復興を成し遂げるためには、浜の現場に最も精通した水産業普及指導員が直接的に漁業者の活動を支援することが必須であることから、各水産漁港部普及指導員と連携し、効果的に普及事業を展開していく。また、試験研究部門と連携し、新たな試験研究成果の普及指導を実施し生産技術の向上を図るもの。

(1) 水産業普及指導員の配置

県内全域を担当する普及指導員を水産技術総合センター及び気仙沼水産試験場にそれぞれ 2 名ずつ、各地区を担当する普及指導員を気仙沼・東部・仙台の各地方振興事務所水産漁港部に計 10 名、普及関連事業予算関係業務や国等との連絡調整・後継者対策等を担当する普及指導員を水産業振興課に 1 名配置し、合計 15 名の水産業普及指導員を配置している。このうち、水産技術総合センター及び気仙沼水産試験場には、先進的な漁業者の相談窓口となり、普及指導員の総括・指導、普及と研究等の連携のために、水産業革新支援専門員をそれぞれ 1 名ずつ配置している。

なお、各地区担当普及指導員は、水産技術総合センター兼務発令としている。

(2) 活動実績等

①普及活動事業

活動内容		概要	備考
養殖通報等の発行			
ノリ		38 回	水技セ
カキ（種がき）		10 回	水技セ
ワカメ		11 回	気水試
ホタテガイ		9 回	気水試
カキ天然採苗に係る浮遊幼生調査・情報提供			
志津川湾		10 回	気水試
技術指導			
アカガイ中間育成・放流	(渡波漁船、仙南 4 支所)	5 回	水技セ
アサリ天然採苗	(松島、鳴瀬、七ヶ浜)	8 回	水技セ
ワカメ陸上採苗	(十三浜、石巻地区、網地島)	33 回	水技セ
マガキ天然採苗	(長面等)	7 回	水技セ
ホタテガイ天然採苗	(十三浜、女川)	17 回	水技セ
ムラサキイガイ浮遊幼生関係	(鳴瀬)	5 回	水技セ
ダルス人工採苗・養殖	(鳴瀬、浦戸東部、七ヶ浜)	40 回	水技セ
アカモク人工採苗・養殖	(鳴瀬)	5 回	水技セ
マボヤ人工採苗	(大谷本吉地区、志津川地区)		気水試
マガキ天然採苗	(大島地区、志津川地区、戸倉地区)		気水試
アラメ人工採苗	(大島地区、歌津地区、戸倉地区)		気水試
ナマコ中間育成・放流	(唐桑地区、歌津地区)		気水試
トリガイ中間育成・放流	(唐桑地区)		気水試
イワガキ天然採苗・養殖	(戸倉地区)		気水試
水産関係調査報告会			
試験研究成果発表会	※新型コロナウイルス感染防止の観点から中止		水技セ
浜と水試の情報交換会		1 回	気水試

②普及指導員研修等

コロナ禍の影響により中止

2 沿岸漁業担い手活動支援事業

本県水産業の本格的な復興を成し遂げるためには各浜の中核となる担い手自らが、地域の牽引役として、新たな技術や考えを取り入れ、漁業の再生に取り組む必要がある。また、震災により漁業就業者は減少しており、新たな担い手となる漁業就業者の確保や育成が急務である。そこで、水産業普及指導員が担い手団体の活動や新規就業者の確保などを総合的に支援し、復興を担う漁業者の育成を推進する。

(1) 活動実績等

①担い手団体の活動支援

	会議等の名称	回数等	備考	
宮城県漁業協同組合関係 青年部関係	宮城県漁協青年部 役員会	—	水技セ・気水試	
	総会(書面決議)	2名×1回		
	水産青年フォーラム	4名×1回		
	全国漁青連東北ブロック会議 (中止)	—		
	石巻総合支所支部 役員会	—	水技セ	
	総会(中止)	—		
	十三浜支所青年部 総会	1名×1回	水技セ	
	塩釜総合支所支部 役員会	—		
	総会	1名×1回	水技セ	
	気仙沼総合支所支部 役員会	1名×2回		
	総会(書面決議)	—		
	女性部関係	宮城県漁協女性部総会	2名×1回	水技セ・気水試
		北部地区漁協女性部連絡協議会総会 (書面決議)	—	
宮城県漁業士会関係	県漁業士会 役員会	1名×2回	水技セ 気水試	
	総会	1名×3回		
	総会	1名×1回		
	北部支部 役員会	1名×3回	水技セ 気水試	
	総会	1名×1回		
	岩手県漁業士会大船渡支部との 交流会(中止)	—		

②漁業に関する各種研修会等

年月日	会議等の名称	場所	内容	受講者数
R5.9.4	青年漁業士養成講座 (1日目)	水産技術総合センター	座学：宮城県水産技術総合センターの普及活動について	4

3 みやぎの漁業担い手確保育成支援事業

本県の沿岸漁業者数は、高齢化や後継者不足により減少の一途を辿っており、東日本大震災後は、この傾向は更に顕著となっている。このため、本県水産業の持続的な発展のためには、水産業の担い手となる後継者の育成、新規漁業就業者の確保が急務となっており、地域の水産業を担う若い世代の人材育成と定着を図ることが重要である。そこで、「みやぎ漁師カレッジ」において、新規就業希望者に対し、宮城の漁業に関する座学等を実施した。

(1) 活動実績等

①みやぎ漁師カレッジ

年月日	会議等の名称	場所	内容	受講者数
R4.6.7	みやぎ漁師カレッジ 長期研修（1期）	石巻合同庁舎	座学：カキ、ホタテ、ホヤ、ノリ ワカメ、ギンザケ養殖について	2
R4.10.21	みやぎ漁師カレッジ 第1回短期研修	七ヶ浜町	座学：ノリ、カキ、ホタテ、ワカメ養殖について	3
R5.1.20	みやぎ漁師カレッジ 第2回短期研修	南三陸町	座学：カキ、ホタテ、ワカメ、ノリ養殖について	3

②小学校等の総合学習への対応

次世代を担う人材育成の一つとして、気仙沼市内の幼稚園、小・中学校、高等学校が実施する海に関する総合学習において、普及指導員等が講師を務め、漁業・水産業への興味や理解の促進に努めた。